

武江年表 1 宝暦五年（一七五五年）三月十六日

2 文化八年（一八一一年）三月十六日

3 安政六年（一八五九年）十月十日

齋藤月岑編著。嘉永二、三年（1849、1850年）、須原屋
伊八刊。

1 宝暦五年（一七五五年）の項に

○三月十六日より深川永代寺にて、信州戸隠明神九頭龍権現とかくし くずりう
開帳頭光この時神楽を舞ふ神子美女の聞えあり其名をおゑんと
寺いふ踊子の事を俗におゑんといふ諺はこれより始めり

註 国会図書館デジタルコレクション「武江年表」8巻
[5] (DOI 10.11501/2605167) 13 コマ目。

2 文化八年（一八一一年）の項に

○三月十六日方永代寺にて信州戸隠明神九頭龍権現開帳くずりう別当
頭光寺

註 国会図書館デジタルコレクション「武江年表」八巻
[7] (DOI 10.11501/2605169) 25 コマ目。

3 安政六年（一八五九年）十月の項に

○同十日、湯島天満宮祭禮、産子町々より車楽伎踊練物等多く出せり、十月は地主神戸隠明神の祭なるべけれど、自ら天満宮の祭と心得たるなり、九日宿宮の日大雨降りければ、十日を宵とし曇天に渡し、又十日に大雨降しかど、雨中に渡りせり。子供の衣装伊達を争ひしも、泥土に汚れたり。されど傘をも用ひざりしは、江戸の風俗なるべし、車楽十三輛踊台五荷地走りをどりも出たり、○今年は、（略）

註 国会図書館デジタルコレクション 「武江年表…全十二冊」(DOI 10.11501/952986) 166 コマ目。